

## 日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語教育学概論	日本語教育の多様性（実践）	2	早矢仕 智子	後期 火曜日 3 講時	
日本語教育学概論	日本語教育の世界	2	小河原義朗	前期 火曜日 3 講時	
日本語教育学基礎講読	日本語教育文法	2	小河原義朗	後期 月曜日 5 講時	
日本語教育学基礎講読	日本語学習者の日本語を知る	2	島崎薫	前期 月曜日 5 講時	
日本語教育学各論	会話（雑談）の教え方を考える	2	西郷 英樹	前期集中 その他 連講	
日本語教育学各論	グローバル化社会における日本語教育	2	嶋 ちはる	後期集中 その他 連講	
日本語教育学演習	日本語コースカリキュラムの評価	2	小河原義朗	後期 火曜日 4 講時	
日本語教育学演習	話し言葉の教育	2	小河原義朗	前期 金曜日 2 講時	
日本語教育学演習	地域日本語支援	2	中川 祐治	後期 金曜日 2 講時	
日本語教育学演習	ナラティブ・アプローチによる研究と教育実践	2	嶋津 百代	後期集中 その他 連講	
日本語教育学実習	日本語コース運営の基礎	2	小河原義朗	前期 水曜日 3 講時 前期 水曜日 4 講時	
日本語教育学実習	日本語コースの運営と改善	2	小河原義朗	後期 水曜日 3 講時 後期 水曜日 4 講時	

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：早矢仕 智子

コード：LB42303 科目ナンバリング：LHM-LIN205J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育の多様性（実践）

2. Course Title (授業題目)：Diversity of Japanese Language Education (Practice)

3. 授業の目的と概要：現在世界で約400万人の人たちが日本語を学んでおり、その増加に合わせて学習者の文化背景やニーズ、レディネスなどの多様化が進んでいる。この授業では、様々な背景や目的を持つ学習者を取り上げ、彼らについての理解を深めるとともに、そういった多様な学習者のためにどのようにコースデザインを行うべきかを知り、コースデザインに関する基礎知識を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Nowadays 4 million people are learning Japanese all over the world. The more people are learning Japanese, the more diverse learners' cultural back grounds and needs, readiness become. In this course, students will develop their understanding of learners' diversity --cultural backgrounds and learning purpose, and gain basic knowledge of course design for these diverse learners.

5. 学習の到達目標：

- ・日本語学習者の多様性について理解を深める
- ・多様な日本語教育の現場についての理解を深める
- ・コースデザインに関する基礎的な知識を身につけ、基本的なコースデザインをすることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- enhance their understanding of diversity of Japanese language learners
- explore diversity of Japanese language education
- gain fundamental knowledge of course design and be able to design a course

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 (10/5) イントロダクション
  - 第2回 (10/12) 多様な日本語学習者
  - 第3回 (10/19) 日本語学習者を知る①
  - 第4回 (10/26) 日本語学習者を知る②
  - 第5回 (11/2) 日本語学習者を知る③
  - 第6回 (11/9) 日本語学習者を知る④
  - 第7回 (11/16) 日本語教師という仕事
  - 第8回 (11/30) 日本語教師を知る①
  - 第9回 (12/7) 日本語教師を知る②
  - 第10回 (12/14) コースデザインとは①
  - 第11回 (12/21) コースデザインとは②
  - 第12回 (12/28) 《グループ活動》コースデザイン
  - 第13回 (1/11) コースデザインへの相互コメント、修正
  - 第14回 (1/18) 《グループ活動》コースデザイン
  - 第15回 (1/25) コースデザインの発表、まとめ
- \*11/23 (火) は祝日のため休講。

8. 成績評価方法：

授業での課題30%、最終レポート40%、授業への参加態度30%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out in the class.

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：なし

前期に実施されている日本語教育学概論を履修し、単位を取得していることがこの科目の履修条件です。

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小河原義朗

コード：LB32305 科目ナンバリング：LHM-LIN205J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育の世界
2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Teaching of Japanese as a Second Language
3. 授業の目的と概要：日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の声を通じて全体を概観する。同時に、普段当たり前のようになっている日本語、そして実際に生活している日本社会を外から俯瞰して眺め、社会における日本語教育の意義・役割について理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of Japanese language teaching and opportunities to see Japanese language communication objectively to help students learn about the significance of teaching Japanese in our society.
5. 学習の到達目標：
  - (1) 日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる。
  - (2) 日本語教育を通して日本語や日本社会を客観的に捉えることができる。
  - (3) 日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:
  1. understand what is Japanese language teaching
  2. see Japanese society objectively through Japanese language teaching
  3. understand the role of Japanese language teaching in society and explain it in their own words
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 日本語教育を取り巻く社会情勢
  2. 日本語教育とは
  3. 日本語教育と日本語
  4. 日本語教師の仕事
  5. 日本語教育の方法 1
  6. 日本語教育の方法 2
  7. 日本語教育の現場を知る 1
  8. 振り返り 1
  9. 日本語教育の現場を知る 2
  10. 振り返り 2
  11. 日本語教育の現場を知る 3
  12. 振り返り 3
  13. 日本語教育の現場を知る 4
  14. 振り返り 4
  15. まとめ、日本語教育の役割

※4回の「日本語教育の現場を知る」では、実際の日本語教育や支援の各現場からゲストスピーカーを招く予定である。そのため、全体の流れも変更になることがある。
8. 成績評価方法：

レポート 40%・課題 30%・授業参加度 30%
9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。
10. 授業時間外学習：指定された資料を読んだり、ビデオを視聴したりする。
11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：なし

3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：小河原義朗

コード：LB41504 科目ナンバリング：LHM-LIN213J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育文法

2. Course Title (授業題目)：Pedagogical Grammar in Japanese language

3. 授業の目的と概要：日本語を教えるために必要な日本語文法の基礎を理解し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students understand the basic knowledge of Japanese language grammar for teaching Japanese and consider it relating to Japanese teaching practice.

5. 学習の到達目標：

- (1)日本語教育ための文法の基礎を理解し、説明できる。
- (2)基礎的な文法知識を使って日本語を分析することができる。
- (3)文法を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:

1. understand the basic knowledge of Japanese language grammar for teaching Japanese
2. analyze Japanese language by using grammatical knowledge
3. consider it relating to Japanese teaching practice

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：対面）

1. イントロダクション
2. 品詞(1)
3. 品詞(2)
4. 名詞文(1)
5. 名詞文(2)
6. 名詞文(3)
7. 形容詞文(1)
8. 形容詞文(2)
9. 動詞文(1)
10. 動詞文(2)
11. 動詞文(3)
12. 活用(1)
13. 活用(2)
14. ムードの表現
15. 期末テスト

8. 成績評価方法：

期末テスト 30%・クイズ 40%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

- 『みんなの日本語 初級』スリーエーネットワーク  
『大地 初級』スリーエーネットワーク  
『できる日本語 初級』アルク  
『テーマで学ぶ基礎日本語 初級』くろしお出版

10. 授業時間外学習：毎回授業の始めに前回の内容理解を確認するクイズを行うため、復習して次回授業に臨む。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：島崎薫

コード：LB31504 科目ナンバリング：LHM-LIN213J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語学習者の日本語を知る

2. Course Title (授業題目)：Develop understanding of how Japanese language learners use "Japanese"

3. 授業の目的と概要：この授業では、日本語学習者とのコミュニケーションを通して日本語学習者が使用している「日本語」について理解を深める。日本語学習者との会話セッションに参加し、そのセッションを通して日本語学習者の日本語運用能力、コミュニケーション能力、接触場面でのコミュニケーションについて考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand how Japanese language learners are using "Japanese". Students will participate in conversation sessions with foreign residents in Miyagi. Through the sessions, they will consider about communication skills and see interactions in contact situations

5. 学習の到達目標：

- ・コミュニケーション能力とは何かについて自分の言葉で説明できる
- ・接触場面のインターアクションにおける重要な概念について説明することができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- ・describe what communication skills;
- ・understand and explain important concepts of interactions in contact situations.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 (4/12) イントロダクション、「みんなのひろば」への参加
- 第2回 (4/19) 「言語ができる」とは
- 第3回 (4/26) コミュニケーションモデル、会話の共同構築
- 第4回 (5/10) 接触場面：聞き手と話し手の役割
- 第5回 (5/17) 接触場面：聞き手行動
- 第6回 (5/24) 接触場面：母語話者の日本語
- 第7回 (5/31) 接触場面：やさしい日本語、フォリナートーク
- 第8回 (6/7) 接触場面：やさしい日本語、フォリナートーク
- 第9回 (6/14) 接触場面：学習者の日本語
- 第10回 (6/21) 接触場面：「誤用」とは
- 第11回 (6/28) 接触場面：コミュニケーションストラテジー
- 第12回 (7/5) 接触場面：コミュニケーションストラテジー
- 第13回 (7/12) 接触場面：母語話者と学習者
- 第14回 (7/19) 接触場面：トランスランゲージング
- 第15回 (7/26) まとめ

\*授業の一環として、授業外で実施される日本語学習者との会話セッション「みんなのひろば」への参加が求められる。

8. 成績評価方法：

授業への参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

授業の一環として、授業外で実施される日本語学習者との会話セッション「みんなのひろば」への参加が求められる。

Students are required to participate in the conversation sessions "Minna no Hiroba" outside of class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：5 単位数：2

担当教員：西郷 英樹

コード：LB98820 科目ナンバリング：LHM-LIN307J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：会話（雑談）の教え方を考える
2. Course Title (授業題目)：Teaching conversation (small talk)
3. 授業の目的と概要：本授業では、会話の授業を効果的に行うための実践的な内容を扱う。特に日本語教育で未開拓である雑談の指導を深く掘り下げ、どのような日本語を教えることが学習者の雑談力向上に結び付くのかを考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class deals with practical content for the effective teaching of conversation. In particular, we will delve deeply into the teaching of small talk, which remains unexplored in Japanese language education, and consider what kind of Japanese should be taught to improve learners' small talk skills.
5. 学習の到達目標：
  - ・会話の授業の環境づくりの重要性が理解できる。
  - ・会話の種類及び特徴が理解できる。
  - ・雑談の種類及び特徴が理解できる。
  - ・雑談に役立つ語彙・文レベルの日本語の特徴が理解できる。
  - ・雑談に役立つ談話レベルの日本語の特徴が理解できる。
  - ・会話の授業の進め方のポイントについて理解できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：As a result of this course, you will gain the following skills.
  - ・Understand the importance of creating an environment for conversation classes
  - ・Understand the types and characteristics of conversations
  - ・Understand the types and characteristics of small talk
  - ・Understand the characteristics of useful Japanese for small talk at the vocabulary and sentence level
  - ・Understand the characteristics of useful Japanese at the discourse level
  - ・Understand practical points for teaching conversation classes
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. オリエンテーション
  2. 会話の授業の環境作り
  3. 会話の種類・会話の授業とは何か
  4. 雑談に役立つ語彙・文レベルの日本語（1）
  5. 雑談に役立つ語彙・文レベルの日本語（2）
  6. 雑談に役立つ語彙・文レベルの日本語（3）
  7. 雑談に役立つ談話レベルの日本語（1）
  8. 雑談に役立つ談話レベルの日本語（2）
  9. 雑談に役立つ談話レベルの日本語（3）
  10. 雑談の種類とその特徴
  11. 会話の授業のポイント
  12. 発表（1）
  13. 発表（2）
  14. 発表（3）
  15. 発表（4）、まとめ
8. 成績評価方法：

出席（10%）、クラス貢献度（40%）、発表（振り返りレポート含む）（50%）により評価する。欠席3回で、自動的に不可となる。遅刻・早退は、2回で欠席1回とみなす。
9. 教科書および参考書：

教科書：西郷英樹・清水崇文（2018）『日本語教師のための日常会話がグーンとアップする雑談指導のススメ』凡人社  
Saigo, H and Shimizu, T (2018) Nihongo kyoshi no tame no nichijo kaiwaryoku ga gun to appu suru zatsudan shido no susume, Bonjinsha
10. 授業時間外学習：毎回の授業で学んだ内容が、学習者の学習意欲を刺激できるように、どのように実際のクラス活動に応用ができるかを考えること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
12. その他：なし  
授業形態（対面／オンライン）、履修者数、履修者の授業内容の理解度により、授業内容（スケジュール）が多少変更になる場合がある。

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：6 単位数：2

担当教員：嶋 ちはる

コード：LB98821 科目ナンバリング：LHM-LIN307J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：グローバル化社会における日本語教育

2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Education in the Context of Globalization

3. 授業の目的と概要：本コースでは、グローバル化により多言語・多文化化している日本語使用環境において、L1、L2 話者がともにどのようなリソースを使いながらインターアクションを行っているのかについて理解を深めることを目的とする。また、従来の日本語教育で扱われてきた「母語話者/非母語話者」といった固定化された二項対立の概念を批判的に捉え直し、多様化する社会の中で関係性をより流動的に捉える必要性について議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to assist the students to deepen their understanding of the interaction processes in contact situations where both L1 and L2 Japanese speakers employ various resources. It is also expected that students will critically examine the fixed dichotomous concepts such as “native speaker” and “non-native speaker”, which is often used in conventional second language education, and discuss how alternative identities can contribute to better understand the increasingly diversifying society.

5. 学習の到達目標：

このコースの修了者は以下の3点について学ぶことが期待されている。

1. グローバル化社会の中で、多言語・多文化化する日本の現状とその課題について理解する。
2. 読み物やL2話者の日本語使用の観察、学生自身の言語使用についての内省を通じ、環境や力関係、これまでの経験がどのように言語学習を含む言語使用やアイデンティティ構築の過程に関わっているのかを理解する。
3. 日本語母語話者を規範とする従来の日本語教育において用いられることの多い「母語話者/非母語話者」「日本人/外国人」といった固定化された関係性や標準化された日本語の習得をゴールとする言語教育観を批判的に捉え直し、多文化共生社会に向け、言語教師はどのように問題解決に貢献できるかについて自分なりの考えを持つことができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Upon completion of the course, successful students will be able to:

1. Have a deeper understanding of the current situation of Japanese society which has been increasingly becoming multilingual/multicultural world.
2. Understand how the contexts and power relations in which L2 Japanese speakers are placed impact their language learning and identity construction processes through assigned readings, observation of interaction, as well as students' introspection of their own experiences.
3. Critically examine the dichotomous concepts such as “native speaker vs. non-native speaker” “Japanese vs. foreigner”, which is often used in conventional Japanese language education, and develop their own ideas about the roles of Japanese language education and teaching professionals' expertise toward better understanding of a multicultural society.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. 私の言語リソースとアイデンティティ
2. 多言語・多文化化する日本の現状
3. 多言語支援とやさしい日本語の課題
4. 日本語母語話者と非母語話者の相互行為の非対称性
5. 母語話者規範とステレオタイプ構築
6. コードスイッチングとトランスランゲージング
7. 接触場面とマルチ・モーダルなコミュニケーション
8. 最終プロジェクト中間発表
9. 接触場面におけるインターアクション (1)：雑談場面
10. 接触場面におけるインターアクション (2)：教室場面
11. 接触場面におけるインターアクション (3)：就労場面 (1)
12. 接触場面におけるインターアクション (4)：就労場面 (2)
13. 発表
14. 発表
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席及び授業参加 (25%)、課題 (25%)、ディスカッションリーダー (10%) 発表 (10%)、最終レポート (30%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考資料は授業時に配布する。

10. 授業時間外学習：課されている文献の予習

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小河原義朗

コード：LB62406 科目ナンバリング：LHM-LIN318J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースカリキュラムの評価

2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Course evaluation

3. 授業の目的と概要：日本語コースカリキュラムの評価は、誰が何のために行うのか、コースカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか、何を評価の対象にするのか、どのような種類があるのかについて、学習活動の体験、テスト・ルーブリックの作成、スタンダードの分析等を通じて基本的なことを確認する。そして、コースカリキュラムにおいて、学習目標が評価を規定し、評価が学習活動を規定すること、多面的な評価の重要性を認識することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to develop students' understanding of the matters to be considered in deciding of evaluation method for language course. Through activities and exercises, students will learn to apply the backward design to Japanese language course.

5. 学習の到達目標：

(1)言語教育における評価の現況について、基本的な考え方を理解し、説明できる。

(2)様々な評価の方法について理解し、説明できる。

(3)日本語コースカリキュラムのバックワード・デザインができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the following:

1.basic principles of evaluation in language teaching

2.various methods of evaluation

3.backward design in Japanese language course

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：）

1. イントロダクション

2. コースデザイン

3. コースカリキュラムの評価(1)

4. パフォーマンス評価

5. コースカリキュラムの評価(2)

6. ルーブリック評価(1)

7. ルーブリック評価(2)

8. コースカリキュラムの評価(3)

9. 伝統的評価と代替的評価

10. テストによる評価(1)

11. テストによる評価(2)

12. スタンダードの分析(1)

13. スタンダードの分析(2)

14. ポートフォリオ評価

15. バックワード・デザインとまとめ

8. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

10. 授業時間外学習：毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：なし

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

同時に日本語教育学実習を履修していること。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：小河原義朗

コード：LB55208 科目ナンバリング：LHM-LIN318J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：話し言葉の教育

2. Course Title (授業題目)：The teaching of oral language skills in a Japanese language course

3. 授業の目的と概要： 学習者が話すことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、会話の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話をする可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、実践し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to develop students' understanding of the contents and methods to improve oral language skills in the Japanese language classroom. Through activities and exercises, students will learn how to plan, practice and evaluate oral communication classes.

5. 学習の到達目標：

(1) 話すことを教えるための教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2) 目的に応じて話すことを教えるための教室活動を考え、教材を作り、実践し、評価することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to:

1. understand various class activities to improve speaking skills

2. create effective class activities and evaluate them through Japanese course

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. コミュニケーション活動の実際

3. コミュニケーション活動の分析

4. 教材作成 1

5. 模擬授業の実施 1

6. 模擬授業の実施 2

7. 授業改善・評価 1

8. 教材分析 1

9. 模擬授業の実施 3

10. 模擬授業の実施 4

11. 授業改善・評価 2

12. シラバスの作成 1

13. シラバスの作成 2

14. 教案作成 1

15. 教案作成 2

8. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

10. 授業時間外学習：毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：なし

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

同時に日本語教育学実習を履修していること。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：中川 祐治

コード：LB63208 科目ナンバリング：LHM-LIN318J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：地域日本語支援
  2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Support in Local Communities
  3. 授業の目的と概要：日本語支援の様々な現場について調べ、変遷や背景を理解するとともに、実際に現場を見学し、体験することで、それぞれの現場の学習者や教師、置かれている環境について理解を深め、支援の在り方について考える。
  4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students with opportunities to explore Japanese language support for foreigners in local communities and enhance their understanding of its history and backgrounds. In observing and participating in activities conducted by local communities and governments, students can further understand participants and instructors/volunteers, and deepen their thought of how such support should be.
  5. 学習の到達目標：
    - ・多様な日本語の現場について理解し、説明できる。
    - ・日本語の現場の多様な学習者について理解し、説明できる。
    - ・その多様な現場での支援の在り方について自分なりに考えることができる。
  6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
    - understand and describe various Japanese language support in local communities
    - understand and describe the diversity of foreigners/Japanese language learners in local communities
    - make their own idea of how local communities should support such diverse foreigners/Japanese language learners
  7. 授業の内容・方法と進度予定：
    - 第1回 (10/1 金)：イントロダクション
    - 第2回 (10/8 金)：地域日本語支援の現状と課題
    - 第3回 (10/15 金)：地域日本語支援の教材
    - 第4回 (10/22 金)：地域日本語支援者に求められる資質・能力
    - 第5回 (10/29 金)：地域日本語の現場について調べる (1)
    - 第6回 (11/12 金)：地域日本語の現場について調べる (2)
    - 第7回 (11/19 金)：発表の準備
    - 第8回 (11/26 金)：発表
    - 第9回 (12/3 金)：支援の現場に入る心構え・準備
    - 第10回 (12/10 金)：支援の現場の実際 (1)
    - 第11回 (12/17 金)：支援の現場の実際 (2)
    - 第12回 (12/24 金)：支援の現場の実際 (3)
    - 第13回 (1/7 金)：ふり返り (1)
    - 第14回 (1/14 金)：ふり返り (2)
    - 第15回 (1/21 金)：まとめ
  8. 成績評価方法：

授業での課題 30%、最終レポート 40%、授業への参加態度 30%
  9. 教科書および参考書：

特に指定しない。必要な場合は適宜指示する。
- No textbooks will be used. References (handouts) will be explained in the class, when needed.
10. 授業時間外学習：文献の読解、資料の取りまとめ、発表の準備  
Students are required to read references, gather the information and prepare for presentations.
  11. 実務・実践的授業/Practical business：○  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
  12. その他：なし



科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小河原義朗

コード：LB53307 科目ナンバリング：LHM-LIN319J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コース運営の基礎

2. Course Title (授業題目)：Designing a Japanese Language Course

3. 授業の目的と概要：10 月から運営する日本語コースを念頭におきながら，教科書分析および模擬授業とその検討を中心に，以下の内容を扱う。

- 1 言語学習環境としての「教室」のあり方
- 2 学習支援者としての教師のあり方
- 3 シラバス，到達目標設定，学習項目設定
- 4 授業見学の視点
- 5 授業活動デザイン
- 6 学習者の日本語

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn the following:

1. role of classroom for language learning
2. role of teacher for language learning
3. course design of language learning
4. points of observing language class
5. teaching activities for language class
6. learners' Japanese language

5. 学習の到達目標：

日本語コースを運営するための基礎的な知識と技能を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn basic knowledge and skills to operate the Japanese language course.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 日本語初級用教科書の検討 1
3. 日本語初級用教科書の検討 2
4. 授業活動のデザインについて
5. 日本語初級用教科書の検討 3
6. 模擬授業の実施
7. 模擬授業の振り返り
8. 日本語中級用教科書の検討 1
9. 日本語中級用教科書の検討 2，授業活動のデザインの検討
10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1
11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2
12. 授業見学の視点，シラバスデザイン案の作成
13. 教師と学習者のあり方について，コース概要と学習者の募集，役割分担
14. オリエンテーションの実施プラン作成，ニーズ調査・プレイスメントテストの検討
15. まとめと 6 セメスターの日本語コースの開講準備

8. 成績評価方法：

レポート (20%)・課題 (40%)・クラス参加度 (40%)

9. 教科書および参考書：

参考書：できる日本語教材開発プロジェクト(2012)『できる日本語』アルク  
坂野永理他(2011)『げんき』1・2 ジャパンタイムズ  
西口光一(2012)『テーマで学ぶ基礎日本語』vol.1・2 くろしお出版  
文化外国語専門学校編(2000)『新文化初級日本語 I』凡人社.  
筑波ランゲージグループ(1991)『Situational Functional Japanese』Notes vol.1-3, Drill vol.1-3 凡人社.  
川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日

10. 授業時間外学習：日本語の教科書を種々閲読し，内容や使用法について考える。

マイクロティーチングや模擬授業の教案を立てて準備する。

実施したマイクロティーチングや模擬授業について，問題点を洗い出し，改善策を考える。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

日本語教育学概論，3セメスター開講の日本語教育学基礎講読を含む関係科目を 10 単位以上履修済みまたは履修中のこと。

6 セメスター開講の日本語教育学実習も引き続き履修すること。  
全回授業に出席し、積極的に参加すること。  
時間外に、日本語授業見学と見学レポートを課す可能性があるので注意すること。

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時. 後期 水曜日 4講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：小河原義朗

コード：LB63307 科目ナンバリング：LHM-LIN319J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースの運営と改善
2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Course: its Operation and Improvement
3. 授業の目的と概要：実際に運営する日本語コースについて、以下の課題に取り組み、授業活動のデザイン力と実践力を養う。教室研究と学習者研究の方法の基礎も身につける。
  - 1 学習者の学習の状態を的確に把握する。
  - 2 異文化接触の場としての日本語授業を意識する。
  - 3 自分の教授スタイルに気づく。
  - 4 授業を適切に評価し、改善策を講じる。
  - 5 授業分析の方法を知り、実践する。
  - 6 コース全体を振り返りつつ、報告書を作成する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will learn the following:
  1. state of learners' learning
  2. intercultural contact in class
  3. teaching style
  4. class evaluation
  5. classroom interaction analysis
  6. reflection of language course
5. 学習の到達目標：  
日本語コースを運営しながら、シラバスの変更、授業の向上を考え、コース全体の改善を図る力をつける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop teaching skills to improve the Japanese language course through operating it.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業実施方法（授業の実施形態：ハイブリッド）
  1. イントロダクション、オリエンテーションの結果について
  2. 日本語コース運営の方針について、授業担当について、授業報告と授業の予定1
  3. 授業報告と授業の予定2、教室活動のデザインとバリエーション
  4. 授業報告と授業の予定3、教室活動の評価：その視点
  5. 授業報告と授業の予定4、教室活動の評価と改善1
  6. 授業報告と授業の予定5、授業分析の方法1
  7. 授業報告と授業の予定6、学習者の観察
  8. 授業報告と授業の予定7、授業分析の結果、教室活動の評価と改善2
  9. 授業報告と授業の予定8、教師行動の分析：ティーチャートーク
  10. 授業報告とまとめ、コースの振り返りと評価
  11. 教室活動のバリエーション、シラバスの問題点
  12. 授業分析の方法2、学習者の達成度の評価
  13. 授業分析の方法3、教師行動の分析
  14. 報告書の作成について、日本語教育学実習全体についての振り返り
  15. まとめ
8. 成績評価方法：レポート（20%）・実習の運営と実施（50%）・課題（30%）
9. 教科書および参考書：参考書：できる日本語教材開発プロジェクト(2012)『できる日本語』アルク  
坂野永理他(2011)『げんき』1・2 ジャパンタイムズ  
西口光一(2012)『テーマで学ぶ基礎日本語』vol.1・2 くろしお出版  
筑波ランゲージグループ(1991)『Situational Functional Japanese』凡人社。  
川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』ひつじ書房、ほか。
10. 授業時間外学習：授業の実施・見学などは時間外に行う。運営するコースは、夜間に片平キャンパスで行う予定。授業分析についても、具体的な活動は時間外学習である。
  - 1 1. 実務・実践的授業/Practical business：  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
  - 1 2. その他：なし  
5 Semesterの日本語教育学実習を履修済みのこと。  
全回授業に出席し、積極的に参加すること。  
教壇実習は夜間に実施する予定。  
コースの運営・改善に関わるミーティングなども授業時間外に行われることがあるので、注意すること。

